

第2学年 国語科学習指導案

日時：平成24年 10月 25日(木) 第5校時
学級：2年4組(33名)
場所：2年4組教室
授業者：宗宮 一夫

1 単元名 論理をとらえる 教材名 モアイは語る～地球の未来～

2 指導の立場

(1) 単元について

本単元では、文章構成や根拠の示し方などに注意して筆者の意見を読み取ることと、自分の立場を明確にし、根拠の示し方などを工夫して文章にまとめることを目標としている。

「モアイは語る～地球の未来～」は、文明を守る生命線は森林資源であることを読者に訴えた説明文である。モアイ像で知られるイースター島で過去に実際に起きた出来事を根拠として述べている点が内容面で読者を引きつけている。筆者は根拠となる事実をどのような手順で見いだしていたか、その事実は何を物語っていたのか。こうした事実は、日本列島で生きるわたしたちや、地球全体にとってどのような問題を投げかけているのか。それらを文章の展開に即して読み取り、筆者の考えを理解させたい。

さらに、次の「立場と根拠を明確にして書こう」の学習では、自分の立場を明確にして読み手にわかりやすい意見文を書くことを目指している。説明文の読み取りで学んだ根拠の示し方や序論・本論・結論という構成を自分の表現に取り入れながら、説得力のある文章が書けるように指導していきたい。

(2) 生徒の実態

<学習状況調査より> (第2学年・4月と7月の変容)

		4月	7月
書くこと	正答率	63,3 %	65,4 %
読むこと	正答率	86,7 %	88,6 %
言語	正答率	90,6 %	90,7 %

4月に県の学習状況調査を基にした「生徒の実態に関する調査」を行った。その結果、「書くこと」の問題に対する正答率が他の領域と比べて正答率が低いことが分かった。

そこで、毎時間、授業の終末に「キーワード」を取り入れたまとめを書く時間を設け、単元の終末には必ず「まとめの作文」を書く活動を行ってきた。その結果、7月の「生徒の実態に関する調査」では、正答率が2.1%上昇した。しかしながら他の領域と比較するとやはり生徒は苦手意識をもっているようである。

生徒が苦手とする理由として「何を書けばよいのか分からない」「書き方が分からない」という意識もアンケート結果より明らかになった。そこで、核となる「キーワード」「段落構成」等を毎時間提示してまとめを書かせ、書く力を付けようと実践を行ってきた。

6月に行った「やさしい日本語」の授業では、事実と考察を区別して読み取る学習を行った。段落ごとにキーワードをとらえ、指示語・接続語・文末表現などの表現の工夫に着目して筆者の考えを読み取ることができた。しかし、文章全体の展開を見据え、段落相互の関係を読み取る力や、キーワードを効果的に使って読み取った内容を要約する力はまだ不十分である。

2学期以降も単元の最初に第1次感想文、毎時間の終末にまとめの作文、更に単元の終わりには最終感想文を書くことを継続的に行っている。しかし読み取った表現の工夫を使って、根拠を明確にした文章を書く力もまだ十分とはいえない。「モアイは語る」で学んだ根拠の示し方や、文章構成の仕方を使うことによって、立場を明確にした論理的な文章が書けるよう指導していきたい。

3 研究主題との関わり

研究主題：学ぶ喜びを実感する生徒の育成

～基礎的・基本的な知識・技能の習得と定着を図る学習指導を通して～

【研究内容2】単位時間における指導の工夫に関わって

(1) ねらいに応じた導入の在り方

本時は、結論の部分を読み取る学習である。そこで、結論部分の役割を確認する。そして、序論・本論の読み取りの足跡を掲示して、これまでの筆者の論の進め方が振り返られるようにする。既習内容とのつながりを意識し、課題を全員が確認できるようにし、文章全体を見通して段落相互の関係を読み取ることができるようにする。

(2) 生徒1人1人のつまずきに応じた指導・援助の在り方

まず、読みの視点を示すことによって一人読みの手がかりを示す。また要約文を書く時に、板書にキーワードを位置付け、そのキーワードを入れたり、書くときの文章構成を提示したりすることで筆者の結論を的確にまとめ、書き方を習得できるようにした。本教材での「イースター島の歩み＝地球の歩み」という筆者の書き進め方を読み取る活動を通して、読者を納得させるための根拠の示し方を学び、自分の表現に取り入れていける力を育てていく。

(3) 自己の伸びを実感する指導の在り方

1時間を終えたとき、又は単元の学習を終えたとき、生徒が自己の伸びや学びを実感することができるのは、まとめの作文で学習内容を的確に、端的に表現できることであると考ええる。

そこで、まとめを書くときにはキーワードを入れて、文型（条件）を設定し、文章を要約する力を付けていく。本時では、キーワードを入れて書くこと以外に2段落構成で書くという条件を付けてまとめの作文を書く。また書いた後、評価規準に照らした自己評価を行い、まとめを修正する時間を設ける。この活動を行うことで生徒自身が本時学んだことを再確認し、確実に理解できるようにしていく。

また最後に二次で使いたい筆者の書き進め方の確認をさせることで、書き方を理解して「書くこと」の力の向上につなげ、二次に向かう意欲を高め、出口を見据えた活動を大切にしていく。

4 単元指導計画

単元の目標

(モアイは語る)

○文章中に述べられている事実や根拠に注意しながら、筆者の意見を読み取ることができる。

○文章構成を意識しながら、筆者の意見を要約することができる。

(立場と根拠を明らかにして書こう)

○根拠を明確にし、構成を工夫して文章にまとめることができる。

○文章を読み合い、論理展開の仕方や根拠の示し方などのよいところを自分の表現に役立てることができる。

単元の評価規準

○イースター島での出来事と現在の地球の類似点を捉え、そこから筆者がどのような主張をしているかを理解している。【読イ】

○イースター島と地球とを比べ、全体を3つに分けて説明している筆者の論の展開を理解している。【読イ】

○関心のあるテーマについて、筆者の論の進め方を参考に、根拠を示しながら意見文を書いている。【書イ】

単元指導計画 (全10時間)

次	時	ねらい	学習活動	評価規準
一 論 理 を と ら え る	1	「モアイは語る」を読み、モアイについて思ったことを感想にまとめ、交流することができる。 二次で意見文を書くという意欲を高める。	1 単元の流れ（二次で意見文を書くという意識をもつ）を知り、そのためにどのような学習活動を行えばよいかを考え、本時の課題をつかむ。 単元の流れを知り、単元を貫く課題を確認しよう。 2 教師の範読を聞く。 3 第一次感想文を書く。 4 感想を交流する。 5 単元を貫く課題を確認する。 《言語活動》 ・ イースター島の例示から筆者の大まかな主張を捉える。 (単元を貫く課題) 筆者の書きぶりを読み取り、構成を考えた意見文を書こう。	【関心・意欲・態度】 ・ 現代の環境問題に関心をもち、感想をノートにまとめている。(ノート)
	2	各段落のつながりを考えながら、全体を三つの意味段落（序論・本論・結論）に分け、筆者の疑問を読み取り、構成について理解し、まとめることができる。	1 本文を読む。 2 課題を把握する。 段落のつながりを考えて、全体を三つの意味段落に分け、筆者の疑問を読み取ろう。 3 一人読みをする。 4 全体交流をする。 5 まとめ作文を書く。 《言語活動》 ・ 接続語や指示語、キーワードを参考に場面分けをする。 《着目させたい表現・内容》 ・ モアイの説明と問題提起 ・ 接続語・指示語・筆者の主張	【読むこと】 ・ 言葉や段落のつながりを根拠にして全体を三つの意味段落に分け、筆者の疑問をまとめている。(ノート) 《序論》①～② 《本論》③～⑮ 《結論》⑯～⑳
	3	本論を読み、小見出しを付けることを通して、文章の構成や展開について理解することができる。	1 課題を把握する。 本論を四つの部分に分け、小見出しを付けよう。 2 本文を読む。 3 一人読みをする。 4 交流する。 5 まとめ作文を書く。 《言語活動》 ・ 本論の4つの場面に小見出しをつける活動を通して、内容を理解する。 《着目させたい内容》 ・ モアイの作成者・モアイの運び方・モアイがつくれなかった理由・文明の結末	【読むこと】 ・ 第2のまとまりを、内容をふまえて四つにわけて、小見出しをつけている。(ノート・プリント) I ③～⑥ II ⑦～⑩ III ⑪～⑫ IV ⑬～⑮
	4	本論の叙述や表現に注意して読み、論理の展開の仕方や根拠の示し方を理解することができる。	1 課題を把握する。 四つの疑問に対する答えと根拠、それを説明している書き進め方を読み取ろう。 2 本文を読む。 3 一人読みをする。 4 交流する。 5 まとめ作文を書く。 《言語活動》 ・ 疑問の答えと根拠を考えることで文章構成を理解する。 《着目させたい表現》 ・ 文末表現（～であろう・～である） ・ 指示語（このように・こうして）	【読むこと】 ・ 四つの部分それぞれの問い、それに対する答えと根拠に着目し、まとめている。 (ノート・プリント)

	5 (本時)	現代の地球がおかれている状況を、イースター島と現代の地球環境の関わりや筆者の書き進め方に着目して読み取り、地球の未来に対する筆者の考えと述べ方をまとめることができる。	1 課題を把握する。 イースター島の説明を通して、筆者の主張と、書き進め方を理解しよう。 2 一人読みをする。 3 交流する。 4 要約文を書く。 5 自己評価をする。 《着目させたい表現・構成》 ・人口増加→人口爆発 ・飢餓地獄・有限の資源 ・地球とイースター島との比較対比・数字 《言語活動》 ・キーワードを使って要約文を書くことで筆者の主張を明確にし、主題に迫る。	【読むこと】 前半にイースター島と現代の地球環境との共通点と地球の未来に対する筆者の意見を、後半に書き進め方の工夫点を2段落構成の文章で書いている。(ノート)
二 立 場 と 根 拠 を 明 ら か に 書 こ う	1	自分のテーマを決め、伝えたい意見をメモし、自分の立場を決めることができる。	1 課題を把握する。 自分のテーマをもち、意見をメモしよう。 2 自分のテーマを決める。 3 テーマについての自分の思いや考えをメモする。 4 メモについて「よい点」「問題点」を書き出す。 5 テーマについての立場を決め、意見をまとめる。 《言語活動》 ・自分の身の回りの視点からテーマを考え、具体的にメモを取る。 《テーマ例》 ・図書館に漫画を置いた方がよい。 ・「ら抜き言葉」を認めるべきか。 ・バスの優先席は無くした方が…。等	【関心・意欲・態度】 ・各自でテーマを設定し、自分の意見をメモしている。 (ノート)
	2	自分の意見の根拠を明らかにするとともに、予想される反論とその意見に対する自分の意見を考えることができる。	1 課題を確認する。 根拠を明らかにして自分の意見をまとめよう。 2 意見の根拠となる事実を書き出す。 3 書き出した根拠の中からわかりやすいものを選び、絞り込む。 4 自分と異なる立場の反論を予想し、それに対する意見を考える。 《言語活動》 ・予想される反論を考えて実際に書くことで相手を説得させる文章の書き方を理解する。	【書くこと】 ・いろいろな角度、視野から根拠を明らかにしてメモし、内容や分量を考慮して絞り込んでいる。 (ノート)
	3	根拠や反論に対する意見を述べる順序を考え、意見文の構成を整えることができる。	1 課題を把握する。 意見を述べる順序を考え、意見文の構成を考えよう。 2 根拠や、反論に対する意見を述べる順序を考える。 3 仲間と構成を見せ合い、意見を交換する。 4 意見交換を生かして、構成を見直す。 《言語活動》 ・文章構成を考えて実際に書くことで相手を説得させる文章の書き方を理解する。	【書くこと】 ・仲間との意見交換を生かして構成を見直し、わかりやすい意見文になるように構成を整えている。(ノート)
	4	構成をもとに、明らかな根拠に基づく四〜六百字程度の意見文を書く。	1 課題を把握する。 構成をもとに、根拠がはっきりした意見文を書こう。 2 意見文の例を読み、文章の展開を確認する。 3 構成をもとに、根拠に基づく意見文を書く。 4 文章を推敲する。 《言語活動》・文章構成を考えて意見文を書くことでより相手を説得させる文章の書き方を理解する。	【書くこと】 ・今までの準備や仲間との意見交換などを踏まえ、表現や構成を工夫して意見文を書いている。(意見文)
	5	意見文を読み合って相互評価を行い、次へつなげるために学習を振り返ることができる。	1 課題を把握する。 意見文を交流し、仲間のよさを学ぼう。 2 意見文を読み合い、良い点や改善点を話し合う。 3 交流をもとに、自分の意見文を見直す。 4 学習を振り返って、自己評価を行う。 《言語活動》 ・仲間の意見文を読み合い、仲間の意見文のよさを学ぶ。	【関心・意欲・態度】 ・仲間との交流をもとに、次へつなげるように自己評価を行っている。(評価プリント)

5 本時のねらい

現代の地球がおかれている状況を、イースター島と現代の地球環境の関わりや筆者の書き進め方に着目して読み取り、地球の未来に対する筆者の考えと書き進め方をまとめることができる。（読むこと）

6 本時の展開（5／10）

過程	学 習 活 動	願う生徒の姿を具現するための指導・援助
つかむ ／ 練 り 合 う ／ ま と め る	①本時の学習へ関心をもち、課題を把握する。 ・本論での四つの疑問とそれに対する答えを確かめる。 ・本時の学習段落が、序論・本論・結論の「結論」の部分であることを確かめる。 イースター島の説明を通しての筆者の主張と、書き進め方を理解しよう。 ②本論の内容を振り返り一人読みをする。 ③イースター島と地球の共通点と、それに対する筆者の考えを話し合う。 ・イースター島の運命＝地球の運命^⑩【比較】 〈共通点〉 ・森によって支えられている。^⑪ ↓ 増加・爆発 文明を守る生命線 比べる ・急激な人口増加→食糧不足・飢餓地獄^{⑬⑭} 【具体的数字の効果→説得力】 ※地獄のイメージ 〈筆者の主張〉 今ある有限の資源を効率よく、長期にわたって利用する方策を考えなければならない。^⑮ 【対比→具体的数字（根拠）→筆者の主張】 ④本時のまとめを書く。 ねらいを達成した具体的な生徒の姿 『イースター島も地球も、どちらも森によって支えられている。このままでは地球はイースター島のように文明が崩壊してしまう。したがって、我々は今ある有限の資源をできるだけ効率よく、長期にわたって利用する方策を考えなければならない。また、筆者はイースター島と地球を比較し、具体的数字をあげて根拠を示し、主張を述べている。』ということを書いている。 ⑤評価の観点に従って自己評価する。 ・不十分なところを付け加える。 ・自分の意見文にしたい筆者の書き進め方を交流する。	①写真や掲示を使って、今までの学習内容を振り返り、本時の学習に対しての意欲化を図る。 ①序論の予告に対しての答えが結論に述べられていることを確認する。 ②イースター島の歴史と地球の未来との関わりに着目させる。 ②何に着目すればよいのかつまづいている生徒に対して、現代の地球での現状と本論中のイースター島の歴史を対応させて読みとるように助言する。 ③生徒の発言を構造的に板書し、筆者の主張と書き進め方を明確に示す。 ③本論で説明してきたイースター島と地球との【比較】をし、【具体的数字】で根拠を明確にし、【主張】を述べるという説得力のある書き進め方に注目している生徒を認める。 ④事実を根拠にすることによって、文章に説得力をもたせる筆者の論理的な文章の展開をとらえられるようにする。「イースター島も地球も」「また」 ④キーワードや文型を例示し、筋道を立てて文章が書けるように助言する。 評価規準 【読むこと】 前半にイースター島と現代の地球環境との共通点と地球の未来に対しての筆者の意見を、後半に筆者の書きぶりの工夫を2段落構成の文章で書いている。（ノート） ⑤評価の観点…2段落構成・「森」・「有限の資源」【比較】【具体的数字】【主張】という語句が入っているか。